東 京 電 力 株 式 会 社

平成 22 年 9 月 17 日

（財）地震予知総合研究振興会

柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会（第三回）

概要報告

１．日時　　平成 22 年 9 月 13 日（月）　１３：３０～１６：３０

２．出席者

主査	山口大学大学院	教授	金折　裕司
委員	徳島大学大学院	教授	村田　明広（構造地質）
	東京大学地震研究所	助教	蔵下　英司(陸域地殻構造)
	千葉大学	教授	伊藤　谷生（構造地質）
	産業技術総合研究所	研究グループ長	荒井　晃作（海洋地質）
	産業技術総合研究所	研究員	丸山　正　（活断層）
	海洋研究開発機構	サブリーダー	高橋　成実(海域地殻構造)
事務局	（財）地震予知総合研究振興会		

（敬称略）

３．テーマ

（１）柏崎周辺地域における後期鮮新世以降の褶曲形成史について

（２）中越沖海域の褶曲形成史－褶曲帯の震源断層位置は推定できるか？－

４．委員会の状況

柏崎地域の褶曲形成過程について，既往の調査結果に基づき，陸域と海域それぞれについて報告された。

（１）柏崎周辺地域における後期鮮新世以降の褶曲形成史について

岸・宮脇（1996）による柏崎周辺地域における後期鮮新世以降の褶曲形成史について説明が行われた。また，当該褶曲形成史と新潟県中越沖地震以降に実施された多数の反射法地震探査及び海上音波探査結果との対比を行い，褶曲形成史との整合性について説明が行われた。

委員会では，柏崎周辺の陸域においては後期鮮新世以降主として褶曲が東へ移動していること，各種地下探査の結果からも概ね整合的な説明が可能であることが確認された。

（２）中越沖海域の褶曲形成史－褶曲帯の震源断層位置は推定できるか？－

柏崎周辺の海域において複数の褶曲構造が存在し，褶曲形成時期はいつくかのステージに区分できること，大局的には褶曲形成場は陸から海側へ移動していったと考えられることが説明された。

委員会では，海域でも陸域と同様に褶曲の移り変わりがあることが確認され，陸域と海域をつないだ褶曲形成史検討の必要性が認識された。

以　上